

2019年度秋期

スーパーバイザー士筆記試験

2020年1月15日(水)実施

13:30~14:30

3. 財務・問題解決

(該当講義 講義③、⑥、⑦)

答案作成上の注意

- ◇ 解答用紙の所定の欄に氏名を記入してください。
- ◇ 係りの合図があるまではこの表紙をあけないでください。
- ◇ 解答は解答用紙に記入してください。
- ◇ 試験時間は60分です。
- ◇ 試験開始後30分で退出できます。
- ◇ 退出される際には、出入口にいる事務局員に解答用紙を提出してください。
- ◇ 再入場はできません。



一般社団法人

日本フランチャイズチェーン協会

財務諸表の知識(税務含む)

【問題 1】 配点 20 点 (各 2 点)

次の①～⑩の取引から解答用紙の貸借対照表と損益計算書を作成してください。特に記述のない場合には、それぞれの取引は現金で行ったこととします。なお、解答にあたっては数字の単位に十分気をつけてください。

- ① 当社は 01 年 4 月 1 日に資本金 3,000,000 円で設立した。決算日は 3 月 31 日。
今期の事業年度は 01 年 4 月 1 日～02 年 3 月 31 日 (以下、「今期」という)
- ② 今期の売上高は 66,000,000 円であり、このうち 3,000,000 円は未回収である。
- ③ 今期の仕入高は 40,000,000 円であり、このうち 2,000,000 円は未払いである。
- ④ 02 年 3 月 31 日に商品の棚卸しを行った結果、仕入金額ベースで 1,500,000 円分あった。
- ⑤ 今期の役員・従業員に対する給与は総額で 10,000,000 円であった。
- ⑥ 01 年 4 月 1 日に金融機関から 20,000,000 円借り入れた。返済期間は 7 年。
今期中に返済した元本の額は 3,000,000 円であり、今期はこの元本返済の他に支払利息 400,000 円を支払った。
- ⑦ 固定資産 (器具備品) の購入価額は 20,000,000 円であり、01 年 4 月 1 日から事業用として使用している。
- ⑧ 上記⑦器具備品の耐用年数は 10 年 (定率法による償却率は 0.20)。定率法により今期の減価償却費を計算すること。
- ⑨ 今期に支払った家賃は 6,000,000 円。
- ⑩ その他今期の諸経費として 5,000,000 円支払った。

貸借対照表 02年3月31日現在

科目	金額 (円)	科目	金額 (円)
現金	()	()	()
()	()	()	()
商品	1,500,000		
器具備品	20,000,000		
減価償却累計額△	4,000,000	資本金	3,000,000
()	()	経常利益	2,100,000
()	()	()	()

損益計算書 (01年4月1日～02年3月31日)

	金額 (単位:円)
売上高	66,000,000
仕入高	40,000,000
期末商品棚卸高	1,500,000
売上原価	38,500,000
() 利益	()
販売費及び一般管理費	
給与	10,000,000
減価償却費	4,000,000
地代家賃	6,000,000
諸経費	5,000,000
販売費及び一般管理費計	25,000,000
() 利益	2,500,000
()	()
() 利益	()

【問題 2】 配点 2 点

問題 1 の⑦で購入した固定資産（器具備品）については、01 年 4 月 1 日～02 年 3 月 31 日の事業年度において 1 年分の減価償却費の計上を行った。この資産を 03 年 3 月 31 日まで引き続き保有していた場合における 02 年 4 月 1 日～03 年 3 月 31 日の事業年度における 1 年間の減価償却費を求めなさい。償却計算を行う場合の償却方法及び償却率に変更はなく、計算結果に 1 円未満の端数が生じた場合には、その都度切り捨てることとする。

【問題 3】 配点 6 点（各 3 点）

中古取得した資産の減価償却を行う場合の耐用年数は、その資産の残存耐用年数を合理的に見積ることが原則となっていますが、「合理的に見積もること」が困難な場合が多くみられます。そこで税務においては、次の表のような方法（簡便法といいます）で計算した耐用年数を使用することができるものとしています。

【簡便法による耐用年数計算】

法定耐用年数の全部を経過している場合	法定耐用年数×20/100
法定耐用年数の一部を経過している場合	(法定耐用年数－経過年数) +経過年数×20/100

(注) 上記算式で 1 年未満の端数は切捨て、また、2 年未満となった場合は 2 年とします。

上記のことをふまえて、以下の問の文中の（ア）（イ）にあてはまる数字を記入しなさい。

前の使用者が 7 年間使用した乗用自動車（法定耐用年数 6 年）を取得し、事業の用に供した場合には、耐用年数（ア）年で減価償却計算を行うことができる。

前の使用者が 2 年間使用した乗用自動車（法定耐用年数 6 年）を取得し、事業の用に供した場合には、耐用年数（イ）年で減価償却計算を行うことができる。

【問題 4】 配点 12 点（各 3 点）

次の記述が正しい場合は○を、間違っている場合には×を解答欄に記入しなさい。

1. 税金を納める義務がある人と実際の税金負担者とが異なる「消費税」は、間接税と呼ばれている。
2. 外国籍の個人が日本の株式会社を設立して日本で経営をしており、現在第 3 期が終わったところである。ここで消費税の納税義務者とは、日本において事業を営む法人や個人であることから、その株式会社の前々事業年度（第 1 期）の課税売上が 1,000 万円超であれば、第 3 期においてその株式会社は消費税の納税義務者となる。
3. 消費税の税率は、2019 年 10 月 1 日以降は、すべて 10%である。
4. 個人の課税事業者は、課税期間の末日の翌日から 2 カ月以内に、消費税及び地方消費税の確定申告書を提出し、消費税を納付しなければならない。

計数管理の知識

【問題 5】 配点 18 点 (各 2 点)

次の文章を読み、正しいものに○、誤りのあるものに×を解答欄に記入してください。

- ① 総資産経常利益率の向上は、売上高経常利益率や総資産回転率を高めることで実現できる。
- ② 建物などの遊休資産の有効活用は、棚卸資産回転率の向上に直接寄与する施策である。
- ③ 廃棄ロスが多くなると、期末棚卸残高が増加するため、売上原価は減少する。
- ④ 低利な融資への借り換えによる金利負担の低減は、売上高営業利益率を向上させる。
- ⑤ 損益分岐点比率は、100%を超えることが最低必要水準である。
- ⑥ 変動費率の引き下げは、売上原価率の低減により実現できる。
- ⑦ 当座比率は、当座の支払能力を示す指標で 100%以上が理想とされる。
- ⑧ 固定長期適合率が 100%を超える企業の支払能力は良好である。
- ⑨ 自己資本比率向上は、収益性を改善し利益を上げて内部留保を図ることで実現できる。

【問題 6】 配点 12 点 (各 3 点)

下表はブックカフェを運営する FC 加盟 1 号店の初年度損益計算書です。次の文章の空欄に適切な記号(大文字のアルファベット)を語群より選択し解答欄に記入してください。

項目		金額(千円)	構成比
売上高		31,400	100.0%
売上原価		15,386	49.0%
売上総利益		16,014	51.0%
販売費・一般管理費		15,400	49.0%
販管費の内訳	人件費	6,500	20.7%
	水道光熱費	2,400	7.6%
	販売促進費	800	2.5%
	減価償却費	1,100	3.5%
	地代家賃	3,600	11.5%
	その他(ロイヤリティ含む)	1,000	3.2%
営業利益		614	2.0%

当店の損益分岐点売上高は、売上原価を変動費とし、販売費・一般管理費を固定費とすれば(①)である。したがって、損益分岐点比率は(②)、安全余裕率は(③)となる。2年目となる今期は、人材が定着し店舗運営も軌道に乗りつつあることから、固定費及び変動費率を現状維持とした上で営業利益 2,000 千円を達成したい。そのためには、目標売上高は(④)が必要になる。

A	30,196 千円	B	31,429 千円	C	32,157 千円	D	33,469 千円
E	34,118 千円	F	100.1%	G	96.2%	H	3.8%
I	0.1%						

問題解決手法

【問題 7】 配点 20 (各 2 点)

以下の問いに記号で答えなさい。なお、答えは一つとはかぎらない。

1. 問題にはいくつかの型がありますが、以下の記述で正しいものを選びなさい。
 - ア) 発生型問題とは、現状をもっと良くしたいというところから生じる問題である。
 - イ) 探索型問題は、原因志向型問題とも呼ばれている。
 - ウ) 設定型問題とは、現在設定している目標との差異が生じた場合の問題を指す。
 - エ) 未達問題は、発生型問題のうちのひとつのパターンである。
 - オ) 回避問題は、発生型問題のうちのひとつのパターンである。

2. 問題を把握するために必要なものはどれか、以下から選びなさい。
 - ア) あるべき姿 (目標)
 - イ) 原因
 - ウ) 現状
 - エ) 課題

3. MECEになっているのはどれか？
 - ア) 飲み物は、ノンアルコール飲料とアルコール飲料に分解できる。
 - イ) 飲み物は、清涼飲料と炭酸飲料に分解できる。
 - ウ) 飲み物は、お酒と炭酸飲料に分解できる。

4. 正しい因果関係について、以下の記述で間違っているものはどれか？
 - ア) 売上が低下したので賞与が削減された。
 - イ) 業務改善を行ったので一人当たりの生産性が改善した。
 - ウ) 雑誌で自店のことが取り上げられたので客数が増加した。

5. 問題を絞り込む方法について、以下の記述で正しいものはどれか？
 - ア) 時系列や他店との比較は、絞り込む際の視点として有効である。
 - イ) 自店の問題なので、競合や他店との比較はあまり有効ではない。
 - ウ) KPIは、大企業には有効だが、中小のチェーンにはあまり役立たない。

6. 原因究明について以下の記述で正しいものはどれか？
 - ア) 原因は問題を裏返すことで容易に究明できる。
 - イ) 3C分析は、原因究明のフレームワークとして有効である。
 - ウ) 原因を絞り込む際には、以前と比較して変化の大きい要素を特定することがポイントとなる。

7. 発想法に関して、以下の記述で正しいものはどれか？
 - ア) KJ法は、収束法の一つで設定されたテーマに対して解答を導き出すための手法である。
 - イ) ブレインストーミング法は、発散法の一つで出来るだけ多くのアイデアを出すための手法である。
 - ウ) KJ法を開発したのは、オズボーンというアメリカの思想家である。

【問題 8】 配点 10 点（各 1 点）

SVが行う問題解決に関する以下の記述について、正しいものには○を、間違えているものについては×で答えなさい。

1. SVは、本部の理念や方針を正しく理解していなければならない
2. SVにとって、加盟店の売上を上げることが最も重要であり、利益までは考慮する必要はない
3. SVは担当店舗の問題を店長に代わって解決する存在である
4. 問題が発生したら、まずは「なぜ(Why)？」と問いかけるべきだ
5. 細かい原因分析を行ったうえで対策を考えるよりも、経験に基づいた対策をすぐに実施する方が大切だ
6. SVは、常に正しい解決策を加盟店に提案しなければならない
7. 担当店舗の問題解決は、オーナーや店長と問題の共有を行うことが出発点である
8. 問題の細分化は、原因がわかりづらくなるため行うべきではない
9. SVは個人プレーなので、担当店舗の問題解決の実績を他のSVと共有する必要はない
10. 問題解決を正しく行うには、真の問題とはなにかを明確にすることが重要だ